



Red Hat Ansible Automation Platform 2.1

Red Hat Ansible Automation Platform のリリース ノート

新機能、機能拡張、バグ修正の情報

Red Hat Ansible Automation Platform 2.1 Red Hat Ansible Automation Platform のリリースノート

新機能、機能拡張、バグ修正の情報

Enter your first name here. Enter your surname here.

Enter your organisation's name here. Enter your organisational division here.

Enter your email address here.

法律上の通知

Copyright © 2022 | You need to change the HOLDER entity in the en-US/Red_Hat_Ansible_Automation_Platform_Release_Notes.ent file |.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux[®] is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java[®] is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS[®] is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL[®] is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js[®] is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack[®] Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

Red Hat Ansible Automation Platform の新機能、機能拡張、バグ修正情報の概要

目次

第1章 概要	4
1.1. ANSIBLE AUTOMATION PLATFORM に含まれるもの	4
第2章 ANSIBLE AUTOMATION プラットフォームのアップグレード	5
第3章 2022年2月のリリース	6
3.1. ANSIBLE AUTOMATION PLATFORM 2.1.1	6
3.2. AUTOMATION HUB 4.4.1	6
3.3. AUTOMATION CONTROLLER 4.1.1	6
第4章 2022年1月のリリース	8
4.1. ANSIBLE AUTOMATION PLATFORM 1.2.6	8
第5章 2021年12月リリース	9
5.1. ANSIBLE AUTOMATION PLATFORM 2.1	9
5.2. 自動コントローラー 4.1	9
第6章 2021年10月のリリース	11
6.1. RED HAT INSIGHTS FOR RED HAT ANSIBLE AUTOMATION PLATFORM	11
第7章 2021年9月のリリース	12
7.1. RED HAT ANSIBLE AUTOMATION PLATFORM 1.2.5	12
7.2. ANSIBLE TOWER 3.8.4	12
7.3. AUTOMATION HUB 4.2.6	12
第8章 2021年7月のリリース	13
8.1. RED HAT ANSIBLE AUTOMATION PLATFORM 1.2.4	13
8.2. AUTOMATION HUB 4.2.4	13
第9章 2021年6月のリリース	14
9.1. RED HAT INSIGHTS FOR RED HAT ANSIBLE AUTOMATION PLATFORM	14
第10章 2021年5月のリリース	15
10.1. RED HAT ANSIBLE AUTOMATION PLATFORM 1.2.3	15
10.1.1. Ansible Tower 3.8.3	15
10.1.2. Automation Hub 4.2.3	15
第11章 2021年3月のリリース	17
11.1. RED HAT ANSIBLE AUTOMATION PLATFORM 1.2.2	17
11.1.1. Ansible Tower 3.8.2	17
11.1.2. Automation Hub 4.2.2	18
第12章 2021年1月のリリース	19
12.1. RED HAT ANSIBLE AUTOMATION PLATFORM 1.2.1	19
12.1.1. Ansible Automation Platform 1.2.1 インストーラー	19
12.1.2. Ansible Tower 3.8.1	19
12.1.3. Automation Hub 4.2.1	20
第13章 2020年11月のリリース	21
13.1. RED HAT ANSIBLE AUTOMATION PLATFORM 1.2.0	21
13.1.1. Ansible Tower 3.8.0	21
13.1.2. Automation Hub 4.2.0	21
13.1.3. Automation Services Catalog	21
第14章 2020年10月のリリース	23

14.1. はじめに	23
14.2. 新機能	23
14.3. 機能拡張	23
14.4. バグ修正	23

第1章 概要

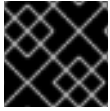
Red Hat Ansible Automation Platform は、エンタープライズアプリケーションのインフラストラクチャーライフサイクルを管理する自動化ワークロードの開発および操作を単純化します。これは、操作、ネットワーク、セキュリティー、および開発を含む複数の IT ドメイン全体で機能します。また、異なるハイブリッド環境全体でも機能します。採用、使用、理解が簡単な Red Hat Ansible Automation Platform は、自動化におけるどの過程においても、企業全体の自動化を迅速に実装するために必要なツールを提供します。

1.1. ANSIBLE AUTOMATION PLATFORM に含まれるもの

Ansible Automation Platform	自動コントローラー	自動化ハブ	Automation Services Catalog	Insights for Ansible Automation Platform
2.1.1	4.1.1	4.4.1	ホスト型サービス	ホスト型サービス

第2章 ANSIBLE AUTOMATION プラットフォームのアップグレード

インストーラーを使用して、Ansible Automation Platform のメンテナンスバージョンへのアップグレードを実行します。インストーラーは、Ansible Tower および Private Automation Hub など、Ansible Automation Platform の最新バージョンへのアップグレードに必要なすべてのアクションを実行します。



重要

yum update を使用してアップグレードを実行しないでください。

Ansible Automation Platform のメンテナンスリリースに関する詳細は、[Ansible Automation Platform に含まれるもの](#) の表を参照してください。

Ansible Automation Platform のアップグレードについては、[Red Hat Ansible Automation Platform アップグレードガイド](#) を参照してください。

Ansible Automation Platform インストーラーの使用手順については、[Ansible Automation Platform Installation Guide](#) を参照してください。

第3章 2022年2月のリリース

3.1. ANSIBLE AUTOMATION PLATFORM 2.1.1

Red Hat Ansible Automation Platform は、エンタープライズアプリケーションのインフラストラクチャーライフサイクルを管理する自動化ワークロードの開発および操作を単純化します。これは、操作、ネットワーク、セキュリティー、および開発を含む複数の IT ドメイン全体で機能します。また、異なるハイブリッド環境全体でも機能します。採用、使用、理解が簡単な Red Hat Ansible Automation Platform は、自動化におけるどの過程においても、企業全体の自動化を迅速に実装するために必要なツールを提供します。

機能強化とバグ修正

- OCP 4.10 との互換性を追加
- 実行環境イメージをプッシュする際の HTTP プロキシのサポートが追加されました。
- コントローラーで nginx ヘッダーを設定する機能が追加されました。
- setup.log ファイルを誰でも読み取れないように変更しました。
- Web コンテナの起動に失敗し、インストールに失敗するコントローラーのデプロイメント中の問題を修正しました
- OCP で Operator をアップグレードした後に発生するサーバーエラー 500 を修正しました。

3.2. AUTOMATION HUB 4.4.1

Automation Hub を使用すると、Red Hat Ansible および認定パートナーが提供する、認定された新しい自動化コンテンツを見つけて利用することができます。Ansible Automation Hub では、クラウド自動化、ネットワーク自動化、セキュリティ自動化などのユースケースのためにパートナーと Red Hat の両方によって開発された、サポート対象自動化コンテンツである Ansible コレクションを検出および管理できます。

機能強化とバグ修正

- 適切な権限を持つユーザーがタスクを表示および管理できるように、タスクシステムの権限が追加されました
- 実行環境を追加/編集する際の名前、名前空間名、およびレジストリー要件が追加されました。
- 認定されたコレクションがプライベートハブからのインストールに失敗するエラーを修正しました。
- レジストリー同期ステータスがリモートレジストリーページに表示されないバグを修正しました。

3.3. AUTOMATION CONTROLLER 4.1.1

自動化コントローラーが Ansible Tower に取って代わります。自動化コントローラーは、制御面と実行面が分離された分散型のモジュラーアーキテクチャーを導入します。名前の変更は、これらの機能強化と Ansible Automation Platform スイート内の全体的な位置を反映しています。

自動化コントローラーは、企業全体で自動化を定義、運用、委任するための標準化された方法を提供します。また、自動化チームが成長し続けるビジネス需要に対応するために自動化を迅速に拡張および提供できるようにする、新しい刺激的なテクノロジーと強化されたアーキテクチャーを紹介します。

機能強化とバグ修正

- 追加の nginx ヘッダーを指定する機能を追加
- コントローラーが収集すべきデータをすべて収集するようにアナリティクスの収集機能を修正
- デモ組織の削除時に以降のインストーラーの実行を中断しないようにコントローラーを修正

新機能と拡張機能の完全なリストについては、[4.x の自動化コントローラーのリリースノート](#) を参照してください。

第4章 2022年1月のリリース

4.1. ANSIBLE AUTOMATION PLATFORM 1.2.6

Red Hat Ansible Automation Platform は、エンタープライズアプリケーションのインフラストラクチャーライフサイクルを管理する自動化ワークロードの開発および操作を単純化します。これは、操作、ネットワーク、セキュリティー、および開発を含む複数の IT ドメイン全体で機能します。また、異なるハイブリッド環境全体でも機能します。採用、使用、理解が簡単な Red Hat Ansible Automation Platform は、自動化におけるどの過程においても、企業全体の自動化を迅速に実装するために必要なツールを提供します。

機能強化とバグ修正

- Ansible Tower 3.7 および 3.8 に同梱されている `openshift-clients` パッケージを更新しました
- ダンプデータを圧縮するようにデータベースのバックアップおよび復元のロジックを変更しました
- `rekey.yml` の実行時にカスタム秘密鍵を提供する機能が追加されました
- インストール中に `selinux-policy` が認識されなかったバグを修正しました

第5章 2021年12月リリース

5.1. ANSIBLE AUTOMATION PLATFORM 2.1

Red Hat Ansible Automation Platform は、エンタープライズアプリケーションのインフラストラクチャーライフサイクルを管理する自動化ワークロードの開発および操作を単純化します。これは、操作、ネットワーク、セキュリティー、および開発を含む複数の IT ドメイン全体で機能します。また、異なるハイブリッド環境全体でも機能します。採用、使用、理解が簡単な Red Hat Ansible Automation Platform は、自動化におけるどの過程においても、企業全体の自動化を迅速に実装するために必要なツールを提供します。

機能拡張

- Automation Mesh は、個別の実行能力を導入し、Receptor を使用してクラスターを柔軟な通信方法で接続する Automation Mesh を使用して、ダウンタイムなしでクラスターを更新します。
- プラットフォームインストーラーは、高可用性 (HA) Automation Hub クラスターをデプロイできます。
- Automation Hub は、インスタンスを外部の Red Hat SSO インスタンスに接続し、インストーラーが Red Hat SSO をデプロイできるようにします。
- バンドルインストーラーは、バンドルの一部として実行環境を提供します。
- プラットフォームインストーラーでは、rsync はもう必要ありません。
- プラットフォームインストーラーは、rsync 環境ありと rsync 環境なしの両方をサポートします
- **sshpas 1.09** のサポートが追加されました
- プラットフォームオペレーターが **operator-sdk1.11** にアップグレードされました
- OpenShift Container Platform 4.10 のサポートが追加されました。
- プラットフォームオペレーターで切断された環境のサポートが追加されました。
- プラットフォームオペレーターのハブの SSO 設定のサポートが追加されました。
- プラットフォームオペレーターのオペレーターの問題のトラブルシューティングに役立つ、収集が必要なコンテナを追加しました。
- 実行環境を ansible-core 2.12 にアップグレードしました。
- 実行環境コレクションを **core-2.12** 互換コレクションに更新しました

5.2. 自動コントローラー 4.1

自動化コントローラーが Ansible Tower に取って代わります。自動化コントローラーは、制御面と実行面が分離された分散型のモジュラーアーキテクチャーを導入します。名前の変更は、これらの機能強化と Ansible Automation Platform スイート内の全体的な位置を反映しています。

自動化コントローラーは、企業全体で自動化を定義、運用、委任するための標準化された方法を提供します。また、自動化チームが成長し続けるビジネス需要に対応するために自動化を迅速に拡張および提供できるようにする、新しい刺激的なテクノロジーと強化されたアーキテクチャーを紹介します。

新機能

- 制御層と実行層を分離します。
- 自動化実行環境は、自動化が実行される環境を構築および配布するための標準化された方法を提供するコンテナイメージです。
- 自動化メッシュにより、オンプレミス環境、ハイブリッドクラウド、およびエッジ間での分散実行が可能になります。これは、AnsibleTower と分離されたノードを置き換えます。

廃止

- 実行のためのカスタム Python 仮想環境のサポート。

新機能と拡張機能の完全なリストについては、[4.x のオートメーションコントローラーのリリースノート](#)を参照してください。

第6章 2021年10月のリリース

6.1. RED HAT INSIGHTS FOR RED HAT ANSIBLE AUTOMATION PLATFORM

Insights for Ansible Automation Platform は、企業全体の自動化の正常性、使用状況、およびパフォーマンスに関する情報を表示できるインサイトとガバナンスを通じて、自動化のデプロイメントに関するフィードバックを提供します。

このリリースでは、Insights for Ansible Automation Platform にレポートが導入されています。Ansible Automation Platform のレポート機能では、Ansible を使用してさまざまなチームにおける自動化作業を視覚的に把握できます。各レポートは、Playbook 実行の頻度や、さまざまなジョブテンプレートから影響を受けるホストのステータスなど、ユーザーが自動化環境のステータスを監視できるように作られています。

レポート機能

- さまざまなメトリックにわたって、Ansible 自動化環境がどのように実行されているかを視覚的に概観できるレポート機能が追加されました。

第7章 2021年9月のリリース

7.1. RED HAT ANSIBLE AUTOMATION PLATFORM 1.2.5

Red Hat Ansible Automation Platform は、エンタープライズアプリケーションのインフラストラクチャーライフサイクルを管理する自動化ワークロードの開発および操作を単純化します。これは、操作、ネットワーク、セキュリティー、および開発を含む複数の IT ドメイン全体で機能します。また、異なるハイブリッド環境全体でも機能します。採用、使用、理解が簡単な Red Hat Ansible Automation Platform は、自動化におけるどの過程においても、企業全体の自動化を迅速に実装するために必要なツールを提供します。

7.2. ANSIBLE TOWER 3.8.4

Ansible Tower は、視覚的なダッシュボード、ロールベースのアクセス制御、ジョブスケジューリング、統合された通知、およびグラフィカルな在庫管理を使用して、チームが IT インフラストラクチャーを一元化および制御する上で役立ちます。REST API と CLI を使用して、既存のツールとプロセスに Ansible Automation を簡単に組み込みます。

Bux の修正

- 最大 6 万のホストのインベントリを実行してもイベントが表示されるまでに長時間かからなくなった
- **artifact_data** には PII または機密データが含まれるため、**playbook_on_stats** の一部として解析に送信されたデータから **artifact_data** を削除しました
- Django バージョンを 2.2.20 に更新
- ジョブテンプレートの編集をクリックした時に読み込みにかかっていた時間がスーパーユーザーよりも通常ユーザーのほうが長かった問題を解消
- 一部の Django 構成を使用してパスワードの複雑さの要件を変更できるようにパスワード検証サポートを更新
- **OR** 条件をサポートするように AWS インベントリタグのフィルタリングを修正
- python-urllib3 の脆弱性を修正 (CVE-2021-33503)

新機能および機能拡張の完全な一覧は [Ansible Tower Release Notes v3.8.4](#) を参照してください。

7.3. AUTOMATION HUB 4.2.6

Automation Hub を使用すると、Red Hat Ansible および認定パートナーが提供する、認定された新しい自動化コンテンツを見つけて利用することができます。Ansible Automation Hub では、クラウド自動化、ネットワーク自動化、セキュリティー自動化などのユースケースのためにパートナーと Red Hat の両方によって開発された、サポート対象自動化コンテンツである Ansible コレクションを検出および管理できます。

Automation Hub のバグ修正

- インポート API の状態およびキーワード用のフィルターを実装しました。
- namespace が作成されるたびに「inbound-namespaces」を作成します。

第8章 2021年7月のリリース

8.1. RED HAT ANSIBLE AUTOMATION PLATFORM 1.2.4

Red Hat Ansible Automation Platform は、エンタープライズアプリケーションのインフラストラクチャーライフサイクルを管理する自動化ワークロードの開発および操作を単純化します。これは、操作、ネットワーク、セキュリティー、および開発を含む複数の IT ドメイン全体で機能します。また、異なるハイブリッド環境全体でも機能します。採用、使用、理解が簡単な Red Hat Ansible Automation Platform は、自動化におけるどの過程においても、企業全体の自動化を迅速に実装するために必要なツールを提供します。

バグ修正

- `venvs` から実行環境、プラットフォーム 2.x にスムーズに移行する機能を Ansible Automation Platform 1.2x に追加。これには、新規 **`awx-manage`** コマンド 3 個の追加、関連付けの確認、実行環境を構築する `venvs` エクスポート機能などが含まれます。
- プラットフォームインストーラパッケージに Ansible 2.9.25 を追加
- Tower の NGINX インスタンスの脆弱性を修正 (CVE-2021-23017)。RHEL 8 へのデプロイメントの場合は、パッケージは RHEL から取得され、RHEL 更新を適用するだけです。
- **`automationhub`** グループなしで動作するようにバックアップおよび復元を更新

8.2. AUTOMATION HUB 4.2.4

Automation Hub を使用すると、Red Hat Ansible および認定パートナーが提供する、認定された新しい自動化コンテンツを見つけて利用することができます。Ansible Automation Hub では、クラウド自動化、ネットワーク自動化、セキュリティー自動化などのユースケースのためにパートナーと Red Hat の両方によって開発された、サポート対象自動化コンテンツである Ansible コレクションを検出および管理できます。

Automation Hub のバグ修正

- `django` 2.2.23 に移行して "CVE-2021-32052 `django`: header injection" を修正
- Pulp コンテンツアプリではなく、`galaxy api` からコレクションアーティファクトをダウンロード

第9章 2021年6月のリリース

9.1. RED HAT INSIGHTS FOR RED HAT ANSIBLE AUTOMATION PLATFORM

Insights for Ansible Automation Platform は、企業全体の自動化の正常性、使用状況、およびパフォーマンスに関する情報を表示できるインサイトとガバナンスを通じて、自動化のデプロイメントに関するフィードバックを提供します。

本リリースでは、Insights for Ansible Automation Platform の自動化節約プランナーが導入されました。オートメーションセービングプランナーは、オートメーションセービングプランを作成し、各ユーザーがプランを完了するために必要な定義された一連のタスクセットを作成して、自動化作業を追跡できるツールです。また、このようなタスクの自動化からコスト削減の計算を表示することもできます。

- 自動化ジョブを完了するのに必要なタスクの一覧を指定して、自動化節約計画を作成します。
- planner list ビューを使用して、組織内のさまざまな自動化節約計画のステータスを確認します。
- ジョブテンプレートを関連付けられた自動化節約計画にリンクします。
- 各プランの**統計** ビューを確認して、自動化節約計画のコストおよび金額を計算します。

第10章 2021年5月のリリース

10.1. RED HAT ANSIBLE AUTOMATION PLATFORM 1.2.3

Red Hat Automation Platform の最新バージョンには以下が含まれます。

10.1.1. Ansible Tower 3.8.3

Ansible Tower は、視覚的なダッシュボード、ロールベースのアクセス制御、ジョブスケジューリング、統合された通知、およびグラフィカルな在庫管理を使用して、チームが IT インフラストラクチャを一元化および制御する上で役立ちます。REST API と CLI を使用して、既存のツールとプロセスに Ansible Automation を簡単に組み込みます。

Bux の修正

- Tower に負荷がかかっているときに、アナリティクスコレクションにより失われたジョブイベントが発生しなくなりました。
- アナリティクスコレクションは、ジョブイベント出力で null 文字を処理するようになりました。
- `/api/v2/metrics` の保留中のジョブは正しいカウントを示しています。
- 大規模なファイルが含まれる場合にプロジェクトの更新が遅延しなくなりました。
- ホストのステータスは、通知ペイロードで適切にカウントされます。
- SAML 組織の作成で、デフォルトの Galaxy 認証情報が適切に割り当てられるようになりました。
- SAML 設定で、必要な SAML 連絡先フィールドが適切に示されるようになりました。
- 以前は不正な動作につながっていた設定更新の競合状態を修正しました。
- rsyslog が応答しない場合のログメッセージがより明確になるように更新されました。

新機能および機能拡張の完全な一覧は [Ansible Tower Release Notes v3.8.3](#) を参照してください。

10.1.2. Automation Hub 4.2.3

Automation Hub を使用すると、Red Hat Ansible および認定パートナーが提供する、認定された新しい自動化コンテンツを見つけて利用することができます。Ansible Automation Hub では、クラウド自動化、ネットワーク自動化、セキュリティ自動化などのユースケースのためにパートナーと Red Hat の両方によって開発された、サポート対象自動化コンテンツである Ansible コレクションを検出および管理できます。

Automation Hub のバグ修正

- travis が Jira 課題の有無を確認する方法を修正します。
- 同期リストのキューレーションが $2 * N$ のタスクを作成する問題を修正しました。N は同期リストの数になります。同期リストのキューレーションがバッチで実行されるようになりました。バッチ数はプロジェクト設定で設定されます。デフォルトでは、タスクごとに 200 の同期リストに設定されています。

- NamespaceLink の作成と重複した名前の検証を修正します。
- 同じ名前の既存のグループの場合、API は 409 を返します。
- namespace API は、「キーワード」クエリーパラメーターを使用するときに、namespace 名と namespace 会社名の部分一致を実行するようになりました。
- namespace とコレクションビューセットでの KeyError ルックアップを修正します。
- 無効なファイル名をインポートするときのエラーメッセージのエラーを修正します。
- galaxy-importer によるドキュメントファイルの最大サイズの確認を修正しました。
- 同期リストの切り替えのみを組織管理者に表示します。組織以外の管理者は、同期リストエンドポイントを表示すると 403 応答を受け取るはずです。
- 「ユーザーの削除」のパーミッションを持っているかどうかにかかわらず、ユーザーは自分自身を削除できないようにする必要があります。
- delete-user パーミッションを持つユーザーが、管理ユーザーを削除できないようにします。
- /sync/config の API ドキュメントでトークンとパスワードを難読化します。
- proxy_url をユーザー名、パスワード、アドレスの 3 つのフィールドに分割します。
- 管理者のみが表示できるグループエンドポイントを修正します。
- 生成された openapi 仕様でパルプ API を公開します。
- 現在の PULP_REDIS* 環境変数を PULP_REDIS_URL 環境変数に置き換え、PULP_REDIS_SSL に対応します。

第11章 2021年3月のリリース

11.1. RED HAT ANSIBLE AUTOMATION PLATFORM 1.2.2

Red Hat Automation Platform の最新バージョンには以下が含まれます。

11.1.1. Ansible Tower 3.8.2

Ansible Tower は、視覚的なダッシュボード、ロールベースのアクセス制御、ジョブスケジューリング、統合された通知、およびグラフィカルな在庫管理を使用して、チームが IT インフラストラクチャを一元化および制御する上で役立ちます。REST API と CLI を使用して、既存のツールとプロセスに Ansible Automation を簡単に組み込みます。

Bux の修正および機能拡張

- RHEL7 で発生する可能性のあるインベントリ同期の問題を解決するために、最新の oVirt インベントリプラグインにアップグレードしました。
- いくつかのバグとパフォーマンス低下を解決するために、最新の theforeman.foreman インベントリプラグインにアップグレードしました。
- [CVE-2021-3281](#) に対処するため、最新バージョンの Django にアップグレードしました。
- [CVE-2020-35678](#) に対処するため、最新バージョンの autobahn にアップグレードしました。
- 悪意のある Playbook の作成者が分離された環境の外部から awx ユーザーに昇格できるセキュリティ問題を修正しました (<https://access.redhat.com/security/cve/cve-2021-2025>[[CVE-2021-20253](#)])
- Tower がログファイルをローテーションする方法に関連するいくつかの問題を修正
- en_US.UTF-8 以外の特定のロケールで Tower が RHEL8 にインストールされないようにインストーラーを修正しました。
- 特定の Playbook 出力での予期しない遅延を修正
- 特定の種類の生のバイナリーデータを印刷する Playbook でジョブの実行が失敗ないように修正
- Ansible Automation のデータ収集時の Activity Stream における不要なレコードの生成を修正
- デフォルト以外の PostgreSQL ユーザー名を指定した場合に PostgreSQL バックアップが失敗しないように修正しました。
- ジョブの起動に失敗する原因となる断続的な失敗を防ぐために、暗号化を設定した Tower 設定へのアクセスを修正
- 分離されたノードで実行している特定の長時間実行ジョブにおける予期しない障害を修正しました。
- グローバル `/api/v2/job_events/` エンドポイントは非推奨となりました。これは、今後のリリースで削除される予定です。

新機能および機能拡張の完全な一覧は [Ansible Tower Release Notes v3.8.2](#) を参照してください。

11.1.2. Automation Hub 4.2.2

Automation Hub を使用すると、Red Hat Ansible および認定パートナーが提供する、認定された新しい自動化コンテンツを見つけて利用することができます。Ansible Automation Hub では、クラウド自動化、ネットワーク自動化、セキュリティ自動化などのユースケースのためにパートナーと Red Hat の両方によって開発された、サポート対象自動化コンテンツである Ansible コレクションを検出および管理できます。

Automation Hub のバグ修正および機能拡張

- **galaxy-importer** によるドキュメントファイルの最大サイズの確認を修正しました。
- 自分自身を削除するために使用できる機能を削除しました。
- **delete-user** パーミッションを持つユーザーが、管理ユーザーを削除できないようにしました。
- **/sync/config** の API ドキュメントでトークンとパスワードを難読化しました。
- **proxy_url** を **username**、**password**、および **address** の 3 つのフィールドに分割しました。
- リポジトリ同期の詳細オプションから認証情報を削除する機能を修正しました。
- シークレットフィールドが設定されているかどうかを示す新しいコンポーネントを追加しました。

第12章 2021年1月のリリース

12.1. RED HAT ANSIBLE AUTOMATION PLATFORM 1.2.1

Red Hat Automation Platform の最新バージョンには以下が含まれます。

12.1.1. Ansible Automation Platform 1.2.1 インストーラー

Ansible Automation Platform は、環境に最適なモードを選択し、インベントリーファイルに必要な変更を加えることにより、さまざまな方法でインストールできます。詳細は、[Installing Ansible Automation Platform](#) を参照してください。

プラットフォームインストーラーのバグ修正および機能拡張

- Automation Hub リポジトリがインストーラーの実行中にのみ有効になるようにインストーラーを更新しました。
- インストールする必要がある Automation Hub の特定バージョンを固定できるようにインストーラーを更新します。
- すべてのノードではなく、所属する DB のみをインストールするようにインストーラーを修正しました。
- バンドルされたインストーラーを使用しない場合に、RHSM Automation Hub リポジトリのみを確認するようにインストーラーを修正しました。

12.1.2. Ansible Tower 3.8.1

Ansible Tower は、視覚的なダッシュボード、ロールベースのアクセス制御、ジョブスケジューリング、統合された通知、およびグラフィカルな在庫管理を使用して、チームが IT インフラストラクチャを一元化および制御する上で役立ちます。REST API と CLI を使用して、既存のツールとプロセスに Ansible Automation を簡単に組み込みます。

Bux の修正および機能拡張

- Playbook 実行内のすべてのホストの Playbook ステータスを収集する分析コレクションを改善しました。
- RHEL 7 の nginx の更新
- autobahn の更新
- 単一の Tower インストールに複数のサブスクリプションを適用する集約サポートを追加しました。
- 特定のアップロードされたサブスクリプションマニフェストを適切に処理するように Tower を修正しました。
- ライセンス/エンタイトルメントデータを取得するために RedHat Satellite 6 と対話するときに、構成された宛先ポートを適切に処理するように Tower を修正しました。
- tower_license モジュール* Fixed インベントリーの更新を Satellite 6 および Tower から予期せずに失敗しなくなりました。

- インベントリーの更新全体を適切に追跡するように AWS インベントリーホストを修正しました。

新機能および機能拡張の完全な一覧は [Ansible Tower Release Notes v3.8.1](#) を参照してください。

12.1.3. Automation Hub 4.2.1

Automation Hub を使用すると、Red Hat Ansible および認定パートナーが提供する、認定された新しい自動化コンテンツを見つけて利用することができます。Ansible Automation Hub では、クラウド自動化、ネットワーク自動化、セキュリティ自動化などのユースケースのためにパートナーと Red Hat の両方によって開発された、サポート対象自動化コンテンツである Ansible コレクションを検出および管理できます。

Private Automation Hub のバグ修正と機能拡張

- NamespaceLink の作成と重複した名前の検証を修正しました。
- 同じ名前の既存のグループがある場合に、API が 409 を返すバグを修正しました
- 「キーワード」クエリーパラメーターを使用するときに、namespace 名と namespace 会社名の部分一致を実行するように namespace API を更新しました。
- namespace とコレクションビューセットでの KeyError ルックアップを修正しました。
- 無効なファイル名をインポートするときのエラーメッセージのエラーを修正しました。
- Akamai レート制限により適切に対応するようにコンテンツの同期を強化しました。

第13章 2020年11月のリリース

13.1. RED HAT ANSIBLE AUTOMATION PLATFORM 1.2.0

Red Hat Automation Platform の最新バージョンには以下が含まれます。

13.1.1. Ansible Tower 3.8.0

Ansible Tower は、視覚的なダッシュボード、ロールベースのアクセス制御、ジョブスケジューリング、統合された通知、およびグラフィカルな在庫管理を使用して、チームが IT インフラストラクチャを一元化および制御する上で役立ちます。REST API と CLI を使用して、既存のツールとプロセスに Ansible Automation を簡単に組み込みます。

新機能

- サブスクリプションのアクティベーションは、Red Hat Satellite に接続するか、サブスクリプションマニフェストをインポートすることで実行できるようになりました。
- Ansible Automation のコンテンツソースとして Private Automation Hub と直接統合し、コンテンツソースの優先順位を設定できるようになりました。
- インベントリーソースは完全な YAML インベントリープラグイン設定を介して構成され、利用可能なカスタマイズおよびグループ化オプションの完全なセットにアクセスできるようになりました。

新機能および機能拡張の完全な一覧は [Ansible Tower Release Notes v3.8.0](#) を参照してください。

13.1.2. Automation Hub 4.2.0

Automation Hub を使用すると、Red Hat Ansible および認定パートナーが提供する、認定された新しい自動化コンテンツを見つけて利用することができます。Ansible Automation Hub では、クラウド自動化、ネットワーク自動化、セキュリティ自動化などのユースケースのためにパートナーと Red Hat の両方によって開発された、サポート対象自動化コンテンツである Ansible コレクションを検出および管理できます。

Private Automation Hub

- オンプレミスまたは任意のクラウドでホストされている新しいプライベート Automation Hub を使用して、エンタープライズで使用するためにこの自動化を同期および管理します。管理者は、独自のコンテンツに加えて、Ansible Automation Hub からの任意の認定済みコンテンツコレクションをプライベート Automation Hub に同期して、内部のオートメーションコミュニティー全体で再利用および共有するためのキュレートされたコンテンツライブラリーを提供できます。

13.1.3. Automation Services Catalog

Automation Services Catalog は、自動化リソースのライフサイクル管理、プロビジョニング、廃棄、およびカタログ化を提供します。これは複数の Ansible Automation Platform クラスターにまたがって機能し、インフラストラクチャー全体にわたる自動化の全体的なアナリティクスを可能にします。物理、仮想、クラウド、およびコンテナの各環境で自動化コンテンツへのアクセスを提供します。このカタログは、自動化コンテンツを制御、整理、管理、および共有する必要がある場合、およびコンテンツの使用に関するセキュリティとコンプライアンス要件を満たす必要がある場合に使用します。

テクノロジープレビュー

- Receptor プラグインをインストールすることで、オンプレミスの Ansible Tower インフラストラクチャーに接続して Automation Services Catalog と通信することができます。

新機能

- 新しいオーダープロセス機能を使用して、Automation Services Catalog を ServiceNow などの Information Technology Service Management (ITSM) システムと統合します。

第14章 2020年10月のリリース

14.1. はじめに

Red Hat Automation Analytics では、インサイトとガバナンスを通じて、自動化のデプロイメントに関するアナリティクスとリアルタイムのフィードバックを提供します。これにより、企業全体の自動化の正常性、使用状況、およびパフォーマンスに関する情報の表示が可能となります。

14.2. 新機能

2020年10月

Red Hat Automation Analytics の本リリースには、以下の機能が含まれます。

- **Job Explorer** は、組織全体の Ansible Tower クラスターで実行されるジョブの詳細ビューを提供します。ナビゲーションタブを直接クリックするか、アプリケーションの各チャートで使用できるドリルダウンビューを使用して、Job Explorer にアクセスできます。詳細は、『[Evaluating your Ansible Tower jobs runs using the Job Explorer](#)』を参照してください。

14.3. 機能拡張

2020年10月

Red Hat Automation Analytics の本リリースには、以下の機能拡張が含まれています。

- Automation Calculator の日付フィルター
- 上位テンプレートに追加された詳細情報

14.4. バグ修正

Red Hat Automation Analytics の本リリースには、以下のバグ修正が含まれます。

- Automation Calculator でのスケーリングが修正されました。